

令和6年度 社会福祉法人恵寿会 経営方針

キーワード

“個のちからと連携”

令和6年度、キーワードは“個のちからと連携”。

ここでの“個”というのは、職員一人ひとりの“個”であり、それぞれの事業所、施設、更には恵寿会という1法人のことも表しています。言葉のとおり、個々の力を発揮し、またそれらを集めれば大きな力となり、その力を連携するともっと大きな力で物事を達成していけるのではないかと、この思いがあります。

まず、職員の“個のちから”について。言うまでもなく一人ひとりが自らの能力を高めつつ、それを最大限に発揮すること、そして周りの職員との連携、ご利用者・園児との連携、ご家族との連携、近隣地域との連携などにより事業所の持つ力を大きくしていきます。

そして、事業所或いは施設がそれぞれ持っている人的資源、物的資源を把握し、有効活用し合うことで相互に連携を図ります。保育園と高齢者・障害(児)者、若しくは高齢者と障害(児)者、地域団体、時には全事業所の連携によって、ご利用者や園児が新たな体験・経験を得る機会となり、また職員個々の成長にも繋がります。

個のちからを強くするには、①コミュニケーション力 ②状況把握力 ③積極性 ④自制心 ⑤向上心 が必要だと言われます。これらが上がっていくことで業務に対するモチベーションを上げ、集団となった際の全体としての力がアップします。例として、陸上競技のリレーや駅伝のような競技は誰か一人が飛び抜けた能力があるチームではなく、全選手が一定の能力を持ち、それを発揮することで勝つことが出来ます。

まずは職員一人ひとりの“個のちから”を全員が高め、施設内のチームワークを強固にしながら、ご利用者や地域の力を巻き込んで、より大きな強みのある連携集団を目指していきます。

1. 法人運営と未来志向型経営

令和6年度、報酬改定の内容を精査し、各事業においてサービス提供の追加・削除・変更を行いません。特に今回の改定では間近に迫る2025年問題と将来の2040年問題を見据えたものであり、運営費収入の確保という点において正確な対応を行なうことが非常に重要となってきます。

ご利用者が何を求めているか、何を楽しみにされているかを考えて、少しずつでも満足して頂ける環境を提供します。また、IT機器の整備も進めていき、職員の働く環境や負担軽減に

活用します。

この先の少子化、または超高齢化社会を迎えながら IT や AI が進化することを見据え恵寿会に則した経営を検討し、実践します。

出雲サンホームは年度内に改修工事を終え、ご利用者の生活環境と職員の労働環境を改善し、皆が笑顔で過ごせる施設とします。また、出雲サンサン保育園と福祉サービスセンターソレイユは開設20周年、サン・スマイルは移転3周年、それぞれ記念すべき年であり、地域での存在感を高め、安定した法人基盤を積み上げます。

2. 個人の能力アップと環境作り

個のちからを上げていくには少なくとも5つの力や心が必要です。そして一人だけで上げていくことは困難です。それらを鍛えていくために周囲の仲間、特に管理職やリーダー等の役職者が職員各々の力(才能)を見出し①声掛け ②褒める ③個別面談 を実践します。自らが経験しよう、学ぼうとする気持ちを起こさせます。

チームとして連携する際には、①方向性 ②目標 ③役割 を明確にします。チーム力を上げながら個々のちからも上がるような体制を創っていきます。

このことにより、未来型の経営に各々が携わっていける能力を身に付けます。

効率化のための検討を強化しながら、外部研修への参加や、内部専門職からの指導や研修会を行ない、職員のレベルアップを図ります。それによって生まれてくる時間を“寄り添いの時間”とすることでご利用者と介護者、園児と保育者がかけがえのない時間を創出していきます。

3. サービス提供と地域共生

新型コロナウイルスが5類移行となり、穏やかながらに日常生活が以前に戻りつつあります。高齢者・障害(児)者・園児、恵寿会でサービスを利用される方々はそれぞれにサービス内容は異なりながらも、個々が過ごす中では不安の少ない、楽しい毎日を送りたいという思いは誰もが持っています。3年以上にも及ぶ制約された生活において、サービスを利用される方も提供する我々も相互に想像力を働かせ、工夫を凝らしてきました。これからは、その様々なバリエーションを手にしたことで、時と場合に応じながら、それらを上手く使い分けていく

ことが必要です。状況を見定めながら、ご利用者や園児が地域の中で活動する機会を増やし、施設間の連携を深め、地域共生社会の実現を実践していきます。

新たに制定した事業所ごとの災害時事業継続計画、感染症対策事業継続計画の職員周知徹底と訓練を実施し、防災・防犯における対応についても安全を確保し、事業の継続が出来る体制整備を行ないいざという時にはお互いが協力し合える関係性を構築します。